

定期演奏会「マダムバタフライ」

吹奏楽部顧問の辻先生 思いを語る

みなみプラス



▲定期演奏会ではソプラノ歌手の大町福美さんをゲストに招き「マダムバタフライ」の中の「ある晴れた日に」を演奏した

吹奏楽部は定期演奏会で初の声楽曲に挑んだ。吹奏楽部顧問の辻理香先生に、定期演奏会の準備の様子や「マダムバタフライ」への思いについて話を伺った。「マダム・バタフライ」の「ある晴れた日に」は県高総体の総合開会式で演奏される「長崎県スポーツ行進曲」の一節としても有名である。

コロナを乗り越える
コロナで活動ができなくなることを予測して定期演奏会用の曲に夏から前倒しで取り組んでいた。年明けの1月、県内のコロナの感染者が

減ったときに「日吉自然の家」で合宿を行い「リトルマーメイド」のマーチングやメイソンの「バラの謝肉祭」をほぼ仕上げることができた。

MINAMI KABE SHINBUN

「マダムバタフライ」への思い
私は熊本県出身。長崎に移り住んでグラバー園を訪れた時に、「マダムバタフライ（蝶々夫人）」を作曲したイタリア人のブッチーニの像や日本人として初めてマダムバタフライを演じたソプラノ歌手の三浦環像があったので感激した。「マダムバタフライ」は長崎が舞台となっていて、東山手や長崎港が登場する。グラバー園の高台から長崎港の様子などを見下ろしたり、

作品の舞台は長崎の東山手
「マダムバタフライ」はイタリアの作曲家ジャコモ・ブッチーニの代表的な歌劇の1つ。舞台は明治時代の長崎。アメリカ海軍士官のピンカートンは、長崎に寄港した際に、日本人の娘、蝶々と結婚をするが、やがてアメリカに帰国することになってしまふ。その後、蝶々夫人は、彼に新しい妻ができたことも知らずに3年もの間、健気に待ち続ける。作品からは帰りを待ち

続ける彼女の、愛に溢れた純粋さが伝わってくる。作品の舞台のモデルは、当時外国人居留地であった「オランダ坂」を中心とする東山手あたり。ただし、ブッチーニ自身は長崎を訪れたことはない。
東山手の向かい側にある南山手のグラバー園には、蝶々夫人を何度も演じ、この悲恋に満ちた恋物語を世界的に有名にした日本人オペラ歌手・三浦環の像がある。

一番困難を極めたのは第二部でゲストと共演したオペラ「マダムバタフライ」。これは吹奏楽用の楽譜が存在しないのでオーケストラの楽譜を読み替えて演奏することにした。3学期になると、まん延防止重点措置や高校入試のために活動が出来ない期間が続き、部活を再開したときは定期演奏会までわずかな時間しかなかったが、本番に向けて懸命に努力した。

活水女子大学の前のオランダ坂を通ると、「ここがオペラの舞台になった所だ。こういう場所を身近に感じながら過ごせるということは恵まれた」と思った。
長崎南高は「マダムバタフライ」の舞台となっている場所から一番近いところにある公立高校。そのため何としても「マダムバタフライ」の曲を定期演奏会でとりあげたかった。
「マダムバタフライ」の楽譜

はもともとオーケストラ用。吹奏楽用の楽譜がなかったのを知り合いの音楽の先生方に吹奏楽用の楽譜を持っていないか聞きまわったが見つからなかった。そこで、吹奏楽部の部員にオーケストラに近づけて演奏することにした。
「マダムバタフライ」の曲を聞いてみたいと思っていた長崎の人は多と思う。また、吹奏楽部の部員にとってこの曲は何となく聞いたことはあるけど楽譜を深く分析して自分たちが本物の音を並べて舞台上に上げるという経験はめったにできないので、みんなの思い出に残ってくれたらいいなと思う。そしてそれをかなえてくれたソプラノゲストの大町福美さんにすごく感謝している。お客様も長崎の地で「マダムバタフライ」を聞いてうれしいうらなうなど思った。

定期演奏会に対する部員の想いは「舞台に立つためには惜しみない努力をした」という定期演奏会の部長挨拶に全て込められていた。
3月1日の卒業式では新型コロナウイルスの感染拡大のために演奏ができなかったため、定期演奏会はなんととして成功させたという思いが部員の間で高まっていた。

定期演奏会に対する部員の想いは「舞台に立つためには惜しみない努力をした」という定期演奏会の部長挨拶に全て込められていた。
3月1日の卒業式では新型コロナウイルスの感染拡大のために演奏ができなかったため、定期演奏会はなんととして成功させたという思いが部員の間で高まっていた。